

令和6年度第8回 感染症発生動向調査協議会

令和6年11月20日

月番：大西 秀典

1 前月の感染症発生動向について（2024年第40週～44週・10月）

<全数把握対象疾患>

- ・ 一類感染症については、発生報告は無い。
- ・ 二類感染症については、結核は今月の報告数は33例で、2019年の同期累計報告数345例、前年の同期累計報告数205例、本年の累計報告数が257例となっておりCOVID-19流行後に減少していた発生数が反転し、増加傾向となっている。年齢別発生数は二峰性で20-30代を中心とした若年層と60歳以上の高齢者層が多い。
- ・ 三類感染症については、腸管出血性大腸菌感染症が10例の発生報告があり、O157が7例、O26が2例、O103が1例であった。
- ・ 四類感染症については、A型肝炎が1例、つつが虫病が1例、レジオネラ症が10例報告されている。
- ・ 五類感染症（性感染症以外）については、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症が2例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症が1例、侵襲性インフルエンザ菌感染症が1例、侵襲性髄膜炎菌感染症が1例、侵襲性肺炎球菌感染症が4例（いずれも成人例でワクチン接種歴不明が3例と接種歴なしが1例）、水痘が2例、破傷風が1例、百日咳が4例（いずれも学童期から青年期の発症例で3例はワクチン4回接種歴あり、1例は接種歴不明）報告されている。

<定点把握対象疾患>

- ・ 新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は13.1となっておりまだまだ発生数は多いが、全国の傾向と同様に前月比42.0%と減少傾向である。
- ・ インフルエンザの定点当たり患者報告数は4.0、前月比124.2%となり流行の兆しがみられている。尚、41週の段階で定点当たり患者報告数が1を超えたため、流行入りの基準を超えた旨公表されている。
- ・ RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は0.7まで低下し、前月比21.4%と県内の流行は全国の傾向と同様に収束傾向である。
- ・ 咽頭結膜熱は県全体で18例の発生があり、前月比57.6%と減少傾向である。
- ・ A群溶血性連鎖球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は5.4と本年前半期と比較して減少はしているが、流行は続いている。
- ・ 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は10.2、前月比110.8%と若干増加傾向である。
- ・ 手足口病の定点当たり患者報告数は29.1とまだまだ発生が多いが、前月比71.3%となっており減少傾向である。
- ・ 基幹定点疾患ではマイコプラズマ肺炎定点当たり患者報告数が13.8、前月比110.4%と全国の傾向と同様に増加しつつある。

2 検討すべき課題

<事務局から>

- ・ 梅毒の発生動向について

3 情報提供（月番委員専門分野から）

- ・ 日本小児科学会が推奨する予防接種スケジュールの改訂版が 2024/11/14 付けで発表されています。
- ・ 第 56 回日本小児感染症学会総会・学術集会が 2024 年 11 月 16-17 日に長崎で開催されました。

4 その他（感染症対策推進課から）

（国通知・事務連絡）

- ・ HPV ワクチンに関する 10 月以降の接種スケジュールについて
- ・ 新型コロナウイルス感染症に係る定期の予防接種の実施にあたっての留意点について（依頼）
- ・ マイコプラズマ肺炎増加に関する学会からの提言について（周知）
- ・ 「へニパウイルス感染症 診療指針」の周知について
- ・ 今シーズンのインフルエンザ総合対策の推進について

<検討結果>